

令和7年5月

短期大学自己点検・評価委員会

本学の全学科生を対象に開講している数理・データサイエンス・AI 教育プログラムについて、取り組みを推進できているかを点検・評価するものである。

評価項目1. プログラムの履修・修得状況

本プログラムの履修者数、修了者数等は教務部において把握している。また、履修期間中にあっては対象科目の履修者出席状況を各学科教員が確認できる体制としている。数理・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアムが提示する「モデルカリキュラム（リテラシーレベル）」に準拠した授業を展開した科目において、履修者数・修了者数及び学修成績分布等により、授業実施状況、出席状況、成績評価及び基準等について分析を行い、全体の理解度を検証する。なお、本科目は必修科目であることから履修状況については問題ないが、修得状況（単位取得状況）については短期大学教務委員会が状況を報告し、学生の履修指導につなげることとする。なお、本プログラムにおける令和6年度の履修率は92.8%であった。また、履修者に対する修了者率は94.8%であった。

科目名	学科	履修者数（履修率）
ビジネスソフト応用	現代教養学科	47（97.9%）
情報処理基礎Ⅱ	食物栄養学科	34（82.9%）
情報処理Ⅱ	幼児教育学科	35（97.2%）

評価項目2. 学修成果

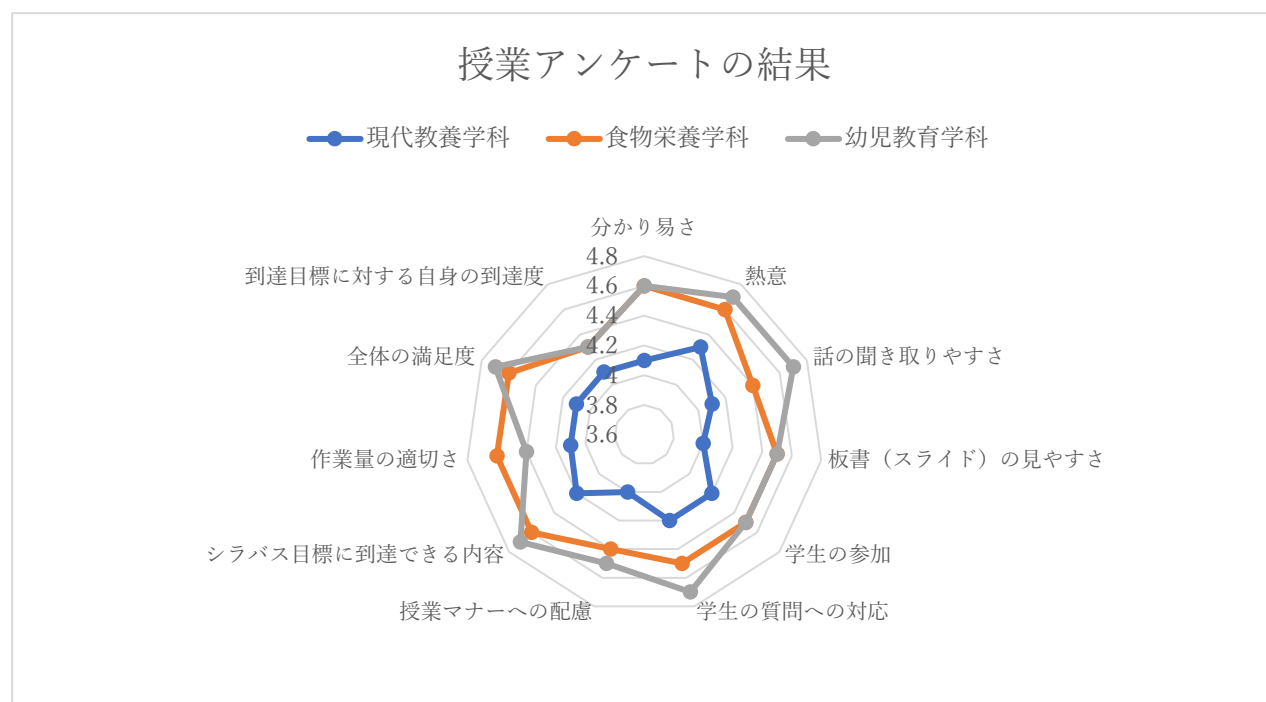
数理・データサイエンス・AI リテラシー教育プログラムにおいて、各科目の履修者の成績評価をもとに学修成果を把握する。これらのデータは教務部および各学科の教務委員会が収集し分析を行った上、短期大学教務委員会にてとりまとめる。この分析結果をもとに検証し、全学的に行われている授業改善アンケートにより寄せられた学生の意見・要望も参考とすることで教育プログラムの改善を図る。また、本教育プログラム対象科目ではそれぞれにLMS上に課題等を置いているが、これらコンテンツに対する回答内容・状況についても今後検証を実施し、学科を越えて横断的に担当教員が共有できる体制を整備し、授業改善に活かすこととする。

科目名	秀	優	良	可	不可	その他	修了者数 (修了者率)
ビジネスソフト応用	6	24	10	5	2	0	45 (95.7%)
情報処理基礎Ⅱ	4	22	3	5	0	0	34 (100%)
情報処理Ⅱ	12	9	1	9	2	2	31 (88.6%)

評価項目 3. 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

本プログラム対象科目である「ビジネスソフト応用」、「情報処理基礎Ⅱ」および「情報処理Ⅱ」は、いずれも卒業要件の必修科目であることから後輩等他の学生への推奨を特に必要としないが、学生が回答した授業改善アンケートに対する「教員コメント（学生へのフィードバック）」を担当教員へ伝えることにより、授業改善の駆動力としている。

【授業アンケートの結果】



評価項目 4. 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

本プログラム対象科目である「ビジネスソフト応用」、「情報処理基礎Ⅱ」および「情報処理Ⅱ」は、令和5年度より全学必修科目として実施していることから、令和6年度以降は履修率がほぼ100%となる。今後も、引き続き全学必修科目としてプログラムを実施する予定としている。

評価項目 5. 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

令和 6 年度にプログラムを修了した卒業生のは数は 145 名であり、履修率が高いため、履修した学生と履修していない学生に特に目立った違いはないものの、全員が進学もしくは就職をしている。本学は食物栄養学科と幼児教育学科では、栄養士、保育士等の資格を活かした就職先が中心となるが、昨年度にはなかった IT 系企業に就職した学生が 3 名おり、プログラムの学びを生かして活躍することが期待される。今後も就職支援部と協力しながら、卒業後の追跡調査を実施する等、修了者のキャリアステップや活躍状況の把握に努めることとする。

評価項目 6. 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

まず本学教育へ反映させることを目的とし、卒業生の就職先へのヒアリングにより、本学の教育に期待することや産業界で求められている資質・能力、本学卒業生に対する満足度等の情報収集を行う。そして、企業との教育コンテンツの共同開発等を通じて、産業界からのニーズの把握に取り組むこととし、卒業生の就職先に対するアンケート調査により、本教育プログラムの評価・改善サイクルを構築することとする。

評価項目 7. 数理・データサイエンス・AI を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること
各学科の専門分野におけるデータサイエンス・AI の事例を積極的に取り扱うことで、自身の専門分野とのつながりを認識させ、数理・データサイエンス・AI を学ぶ意義の理解を促すこととする。また、知識の共有・定着化を図るため、グループワーク・ディスカッションを取り入れ、学生の学び合いやコミュニケーションを促進し、学ぶ楽しさや学習意欲の向上の促進に努める。

評価項目 8. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

短期大学教務委員会において、授業振り返りアンケート等の学生の意見を参考に、学生の「分かりやすさ」の観点から講義の内容・実施方法の見直しを検討する。また、ファカルティ・ディベロップメント事業として、授業振り返りアンケートの結果を授業担当教員にフィードバックし、振り返りの内容を提出させることで、授業担当教員の授業改善を促進する取り組みを行う。

評価

履修率や修了者率については必修科目であることから 100%となることが理想であるが、昨年度より履修者、修了者ともに低い割合となってしまった。履修指導や授業内容の見直しを含め、100%となるよう対策を講じていきたい。授業アンケートは概ね高評価であることから、担当教員自身が専門分野との関連性などを明確にし、より実践的な内容としていくことで卒業後の活躍につながると考える。今後も産業界のニーズに対応できるよう改善サイクルを確立させていきたい。